



Hepatic and extrahepatic malignancies in cirrhosis caused by nonalcoholic steatohepatitis and alcoholic liver disease

著者名	児玉 和久
発行年	2013-12-20
URL	http://hdl.handle.net/10470/30340

主論文の要旨

Hepatic and Extrahepatic Malignancies in Cirrhosis Caused by
Nonalcoholic Steatohepatitis and Alcoholic Liver Disease

(NASH 肝硬変とアルコール性肝硬変における肝内・肝外発癌の比較)

東京女子医科大学 消化器内科学教室

(主任：立元敬子教授)

児玉 和久

Alcoholism: Clinical and Experimental Research

Vol.37, No.S1, E247~252 (平成25年1月)に掲載

【要旨】

非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) とアルコール性肝障害 (ALD) を病因とする肝硬変 (LC) の肝細胞癌 (HCC) および肝外の発癌実態と危険因子を比較検討した。病理診断で診断された ALD-LC 85 例と NASH-LC 72 例を対象とした。NASH-LC は ALD-LC と比較して、有意に高齢で、女性が高頻度であった。HCC 発癌率は両群とも約 2% とほぼ同率であった。HCC 危険因子は NASH-LC で、高齢、 γ GTP 高値、Child-Pugh スコア高値で、ALD-LC では糖尿病であった。肝外発癌は NASH-LC 1 例、ALD-LC 7 例であった。糖尿病は NASH の発症・進行危険因子で、ALD の HCC の発癌危険因子でもあり、生活習慣病と肝外発癌の間に密接な関係が示唆された。